

平成30年度 地域でつながる家庭教育応援事業

親子の学び応援講座 (安達中学校区PTA)

日時：平成30年11月5日(月) 13:45~15:05
場所：二本松市立安達中学校 体育館

講演「これまで歩んできた道、そしてこれからの福島に寄せる思い」

講師 橋本亜由美氏 (ふくしまボンガーズ/おかちゃん)

齋藤 智暁氏 (ふくしまボンガーズ/ムッシュ・サイトー)

SNSの広がり等社会情勢の変化により、人と人との関わりや豊かな体験、コミュニケーション能力など、子どもたちの自己肯定感の形成に結びつく様々な要素が体得しにくくなってきている。そこで、ふくしまボンガーズの講話を通して、夢や希望をもってチャレンジする態度や実際の経験を通して判断する力、自分の思いを伝える力など、子どもたちがこれからの時代を生きていく上で必要になる資質や能力を各家庭で形成していけるように、本テーマを設定し、当講座を実践した。

1 講演の内容

(1) ふくしまボンガーズについて

① ふくしまボンガーズの現在

- ・現在は、福島を拠点に活動している。地方を活動拠点にするお笑い芸人としては、先駆的な存在である。
- ・「パチッコリン」「柴犬」の2つのユニットで活動をしている。
- ・テレビやCM、ラジオに出演しながら、講演も行っている。

② ふくしまボンガーズができるまで

- ・はじめは地方巡業をしていた。「地方でお笑いを展開する」という吉本興業の方針により、福島で活動を始めた。
- ・震災後、吉本興業に戻る話もあったが、お世話になった福島での活動を続けることを選んだ。今は、吉本興業には所属せずに、ふくしまボンガーズとして福島を拠点にした活動を展開している。
- ・東京や大阪と違って、地方都市である福島は、芸人が地域に根ざして活動することが難しいと思われていた。しかし、福島ของ皆さんに温かく見守っていただき、地元の芸人として認知してもらっている。今では「ご当地住みます芸人」として福島に根付くことができたと思っている。

③ おかちゃんについて

- ・小学生の時にはアイドルを目指していた。中学生の時には、お笑い芸人が将来の夢になった。高校卒業後に企業に就職し、芸人の養成所に入るための資金を貯めた。親には猛反対をされたが、自分の夢を叶えるために養成所に入った。
- ・養成所11期生として、お笑いの勉強をした。しかし、コンビを組んでいた相方が女優を目指したために、1人で活動することになった。



・地元の福島で活動しているお笑いグループがあるとの情報を聞いて、現在のふくしまボンガーズに入った。いろいろなことがあったが、今では夢が叶い、テレビやラジオに出演することができている。その姿を見て、猛反対していた親も、芸人としての自分を応援してくれている。

④ ムッシュ・サイトーについて

- ・親が警察官という堅い職業だったが、おじいちゃんが楽しい人だったので、今の自分があるのかもしれない。
- ・大学卒業後、25歳で吉本興業養成所に入り、3年間お笑いの勉強をした。公務員の資格も取得しているが、芸人の道を歩んでいる。
- ・今、自分の夢が見つからない人も、あせることはない。いつか自分が本当にやりたいことが見つかったときに、頑張っていけばよい。何かにチャレンジすることに遅すぎるということはないと思う。



(2) お笑い芸人という仕事について

① お笑い芸人を目指すには

ア お笑い芸人の養成所に入り、感情表現や発声の練習を行うこと。

[参加型の発声練習]

- ・意欲的に挙手した中学生2人が舞台上がり、「あーっ」と発声をした。
- ・おかちゃん、ムッシュ氏も発声を実演。ムッシュ氏の遠くまで響き渡る声に会場が沸いた。

[参加型の表現練習（エクスペッション）]

- ・おかちゃんが「笑う」表現を実演。（軽く笑う、中くらいで笑う、大きなリアクションで笑う。）
- ・笑うコツは、何でもいから、相手のおもしろいと思うポイントの一つを見つけること。そして、そのポイントが「おもしろい」と自分の脳に思い込ませること。
- ・意欲的に挙手した中学生2人が、「笑う」「怒る」を実践。

（2人の中学生の好演技に会場が大いに盛り上がった。感情を表現する楽しさや、積極的に挑戦することの素晴らしさを伝えてくれた。）

イ 何事にも興味をもって、自分の目で観察したり調べたりすること。

- ・人が本当に大笑いすると声は出なくなる。それが分かるのは、大笑いする人をよく観察していたから。芸人には観察する力が必要になる。自分たちのまわりには、日常から意識して観察したり、調べたりしていないと分からないことがたくさんある。
- ・ネタを作るためには、あらゆる知識が必要になる。例えば寿司屋さんのネタを作り上げるには、寿司屋さんについていろいろな角度から調べて、知識として蓄える必要がある。何事も、様々なことに興味をもって調べたり、考えたりすることが大切になる。

ウ 活躍できる芸人になるための努力が必要。

- ・吉本興業では、芸人としてネタを披露させてもらえるまでにも様々な壁を乗り越えていかなければならなかった。初めてネタを披露できたときの持ち時間は1分しかなかった。そして、そのときの謝金はコンビ1組につき100円であった。それでも、芸人の夢をあきらめず、努力を続けた。



② ショートコントの実演

- ・ショートコントの「トイレ」と「新婚生活」をムッシュ氏とおかちゃんが実演した。
- ・意欲ある生徒2名が挙手にて登壇。ショートコント「カンニング」を即興で行った。ムッシュ氏と舞台袖でネタ合わせを行い、即興での実演に挑戦した生徒に会場から拍手が送られていた。

・舞台袖でのネタ合わせ中は、おかちゃんへの質問タイムになった。始めは遠慮がちであった児童生徒も、次第に積極的になり、思い思いの質問をしていた。自分の思いを表現することの大切さを、おかちゃんは質問に答えながら子どもたちに伝えていた。

・ムッシュ氏は、ショートコントの相方として校長先生を指名した。校長先生も率先して登壇して、ショートコント「ゾンビの村」を熱演した。校長先生のコントに会場は大いに盛り上がった。（後で、校長先生は、「子どもたちに積極的に挑戦しようと言っている手前、私も頑張っってコントに挑戦しました」と笑顔で語っていた。）

(3) まとめ

- 今の時点でやりたいことにどんどん挑戦してみるとよい。一つの事に没頭してやり遂げることも素晴らしいことだが、様々な事に興味をもって、体験や経験をすることで得られることは多い。その中で自分がやりたいことが見つかっていく。今、夢をもつのもいい。いつか夢をもつのもいい。
- 今はインターネットで調べるだけで、どんな情報でも簡単に得られる。しかし、どんなことでも実際に自分でやってみないと分からない。インターネットの情報は本当かどうか分からないものもあるが、自分で体験して得た情報は本物である。実際に体験して、感じたり分かったりしたことが、本当の意味での自分の力につながっていく。



※ 夢に向かって努力すること、自分の思いを表現すること、実際に体験をして感じ取ること、福島への熱い思い…。笑いの中に大切な内容がたくさん散りばめられていた。参加者は、ボンガーズの二人の話に自分を重ね合わせ、目を輝かせながら聞き入っていた。

2 参加者の声

- 夢と希望をもつことの大切さを教えていただきました。夢や希望に向かって努力することが輝ける未来につながるのだと感じました。
- 吉本で頑張っていたが、福島のためにと（福島に）住居を構えてでも、お笑いを職業として努力してきたというお二人の経緯にとても感動しました。これからの郷土のために働く小中学生にとって、有意義な内容でした。ありがとうございました。
- 笑いを交えての講演だったので、時間が経つのがあっという間でした。夢を叶えるには大変な苦労があったということを笑いの中で教えていただきました。「ネットの情報は本当のものか分からないが、自分でやれば本当の情報になる」という言葉が心に残りました。
- 子どもたちにとって、分かりやすい言葉で、夢をもって生きることの大切さを伝えてくださった講演会だったと思います。特に、子どもたちの生き生きとした笑顔や笑い声が印象的でした。夢をもつこと、夢を言葉にすること、行動してみること、たくさんのヒントをいただいた楽しい講演会でした。
- 中学生のときから、芸人を夢見ていた「おかちゃん」。大学卒業後に芸人を目指した「ムッシュサイトーさん」。夢や希望（目標）を早くにもって頑張るのも素晴らしいけれど、いくつになっても、本当にやりたいという気持ちがあれば、叶えることはできるのだと思いました。
- どんな仕事にも下積みや苦労があり、そのときの体験が糧になっていくんだと思いました。楽しい時間を過ごさせていただきました。
- お話の中に、「いろいろなことに興味をもち、それを調べたり、実践したりすることが大切」とありました。そのことを支援できる環境を作っていくことが必要だと思いました。